随想

「キャンピング ゼミ」

愛知淑徳大学
創造表現学部 准教授　**藤田 良治**

初対面の学生同士が早く打ち解ける方法はないだろうかと思っていた。新学期早々のゼミでは決まった人としか関わりを持たないことが多い。発言はまばらで、淡々とゼミが進行する。教員も学生も有益な時間を共有したいと考えていた。

愛知淑徳大学長久手キャンパスには芝生のきれいなはっぴー広場がある。開放的なこの場でゼミを行うことでコミュニケーションがとれ新たな発想が生まれると感じた。しかし、炎天下でのゼミは暑く、日焼け対策も必要である。芝生の上に座ることにも抵抗があるだろう。そこで、快適な環境を整えるために大型タープを学生と共に張ることとした。学生に聞いてみると、アウトドアに興味を持つ学生は多く、数名はこれまでにテント張りを手伝ったこともあると言う。テントやタープは災害対策などで生活空間を確保できるので、このような知識や経験はいざという時に役立つと思っている。

大型タープは、ポール2本とロープを4本張ることで簡単に立ち上がる。幕の裾をペグで地面へ打ち付ければ、ゼミ生20人が集える快適な空間が広がる。実にシンプルだ。学生たちの手によって突然学内に出没した巨大タープ。その中でお互いが向き合うように円形に椅子を並べて、ディスカッションを開始した。学生同士の結束力が増し、リラックスして自分の意見を述べるようになった。新しい仲間との間に良い関係性を構築できたようだ。

環境を変え、共同作業を通じてお互いが打ち解けるという目的は達成できた。学生が巣立ち、「はっぴー広場でゼミの仲間たちと議論できたこと」を大学時代の思い出にしてもらえたら嬉しい。

アウトドアの知識は災害時にも役に立つ（2019年10月9日撮影）